

日本医療福祉生協連近畿ブロック有志

ボランティアセンター 東日本大震災支援ニュース

NO. 1 2011年5月5日 発行担当 尼崎医療生協・瀬井

5月より、近畿ブロックの医療生協有志で、みやぎ県南医療生協の皆さんが行ってきた支援活動の継続を目的に、独自の支援活動を開始しました。みやぎ県南医療生協から拠点となる施設をお借りし、ボランティアの受け入れを行います。現在、支援に入っているのは宮城県亶理郡山元町です。みやぎ県南医療生協から40キロほど離れた沿岸部です。海岸から3キロまで津波が押し寄せ、駅まで流されています。他の地域に比べ報道や支援が送れたことから、地元出身の県南医療生協職員の支援からはじまりました。

5月1日～9日 現地責任者として尼崎医療生協・瀬井が5日までの予定の組合員理事2名とともに現地に入りし、4月の半ばから現地で支援にあたっている「たじま医療生協」組合員の西垣さんと合流しました。



(駅ごと流された坂元駅より山側を撮影。駅から山側まで2キロ。海岸から駅まで1キロ程度が津波被害)

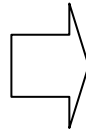
【5月2日】

13:00 真庭区民会館の玄関掃除を行う。その後、小学校訪問と避難所訪問も2手に分かれて情報収集。途中、瓦礫掃除をしている集落があり、声をかけると庭に積もった泥をとりたいたいという方がおられたので、全員で手伝い。夕方までかかるが終わらず明日に持ち越し。この周辺では津波が高いところで1m近く浸水し、死体も流れてきたという地域。建物は無事だが、みな1階が住めない状況。

【5月3日】

10:30 神戸医療生協、健康共和会に尼崎医療生協の組合員1名が加わり、大型バスで真庭区民会館に到着。

11:00 昨日の庭掃除の続きに神戸医療生協、健康共和会のメンバーが入る。尼崎の組合員理事2名が周辺地域の全戸訪問をし、周辺から様々な依頼が舞い込み対応。氏神様の掃除と修復も。お昼を挟み、14:00まで全力でいった。残っていたメンバーは、真庭区民会館で仕分けできずに困っていた支援物資の仕分けを一気に行う。



11:30

船越理事長が真庭区民会館に到着。遠藤町会議員、京都府議員団事務局で休みを取って実家に近い山元町に入っている加藤さんと真庭区民会館で合流し懇談。行政が機能していないこと、情報が被災者に行き届いていないこと、避難所の実態が劣悪であること、仮設住宅入居がはじまり、仮設住宅への支援も求められていること等の問題があり、被災者1人ひとりに声を直接聞き取り、対応していくことの必要性を確認。今後も連携していくこととした。その後、加藤さんに連れられて山元町で最初の避難所へ。1週間分の食事材料はあるが自炊。その後、食事は自己責任。仮設では中古自転車の支援物資と炊き出しが好評。仮設住宅への支援の必要性を感じる。避難所では1人1畳のスペースに、悲しんだり泣いたりすることもできずに来た中で、仮設住宅に入ってはじめて悲しんだり泣いたりできる状況に。心のケアも大変求められる。

- 13:00 避難所となっている坂元支所へ船越理事長と神戸の歯科衛生士3人とともに入る。入居者の健康状態等を把握。見舞金や仮設入所に違いがあり支援が必要な方がいることを把握。
- 14:30 全員が真庭区民会館に戻り、バーベキュー準備。17時より三味線コンサート（県南医療生協職員の知り合い）、18時よりバーベキュー。三味線コンサートでは皆で歌い感動の涙も。神戸の焼肉はこれまでで一番よかったと避難所の役員さん。川崎さんの手打ちうどんも好評。ご飯がおいしいと何度もおかわりされる方があった。20時に撤収。



(バーベキューは予想以上に避難者を元気づけた)



(避難所での相談・・・みなさん先行きに不安)

- 18:00 合間をみて、午後、坂元町の全戸訪問の中で、先生に相談したいという家があったので訪問しアドバイス。その際、床下浸水時の泥が大量に残ったままであることが判明。明日、泥だしをしてみることに。

【5月4日】

- 9:00 神戸グループが前日にあまった焼肉用の肉を昨日庭掃除等を行った地域に配ってあるく。
- 9:30 昨日夕方に約束した坂元町の泥だしに神戸グループと尼崎組合員が集中。船越理事長と残った神戸グループは、真庭区民会館にて健康チェックと健康相談。健康相

談は最終的には避難所での車座懇談会に。

12:00 泥だし終了し、神戸は帰路へ。

13:00 避難所となっている坂元中学に船越理事長が入り健康相談。農家を業としている方が多く、収入が少ない国民年金だけの方とうのケースが多い。その後、真庭区民会館に戻り、支援物資の仕分けを夕方まで行う。



【5月5日】

9:00 尼崎の組合員理事2名岐路へ・・・「非常に充実した3日間だった」との感想。船越理事長は芝田町にある太陽の村という二次避難所へ。区長が行政待ちにせず、独自に二次避難所を確保。周辺自治体に直接避難先を交渉すると快く実現。宿泊施設もあり1世帯ごとに1部屋。震災の翌日に入居予定の新居が流されたと言う世帯あり。ローンをかかえ、マイナススタートという声。政治による解決が求められる。

12:00 船越理事長岐路へ。

13:00 真庭区民会館に届ける布団を回収しながら区民会館に。

15:00 坂元中学校、坂元支所、坂元町を訪問。必要といわれていたエプロンや半そでTシャツを配りながら会話。坂元町では最初の庭掃除の隣のお宅にも声かけ。NPOから借りることの出来た降圧噴射機で床や窓の掃除。住居スペースを見せてもらおうと泥だらけ。町のボランティアセンターにも依頼はしているそうだが、もし次の医療生協ボランティア団がきた時点で残っていたら手伝いましょうかと会話。坂元支所につくと、罹災証明がでていないために、唯一避難所で見舞金(3万円)が出て行かない方について相談していた遠藤町議が、早速、罹災証明を本人に届けてくれていた。明日、役場に隣組の方に車で申請に連れて行ってもらえることとなった。

連休中の神戸医療生協、神戸健康共和会の皆さんの活躍は素晴らしい内容のものとなりました。さすが阪神大震災経験をもつ法人の皆さんです。今後の活動を考える上でもたくさんの経験を作り出すことができました。

明日、5月6日の夕方にはヘルスコープおおさかの組合員活動部員が22日頃まで合流。8日には現地責任者が神戸から到着予定です。

5月21日(土)～22日(日)に近畿ボランティア支援隊の検討を!

5月22日に神戸医療生協を中心に再度支援隊を検討しているとの情報がありました。近畿としてのボランティア隊を大量派遣できないでしょうか。大変ですが、20日(金)に出発し、21日(土)午前～22日(日)まで活動できないかと考えています。連休後、学生ボランティアも激減し、坂元町の泥だし等は、おそらく解決しないものと思われます。